

ちょっといい話

大切だと思うのは、世間に名を博した人、偉い人とはなるべく警戒に接しておくこと。幸い青年時代にいろんな方と接する機会があった。立憲政友会の松野鶴平さんとか重光葵さん。小林秀雄さんとか、数限りない。そういう方が声をかけてくださると、恐れ多くて声が出ない。畏敬の念で声が出ないっていう経験を若い時代にすべきだと思うね。(古美術鑑定家・中島誠之助さん)

野球にミスはつきものですが、ミスを挽回できるスポーツです。人生も一緒。野球で大きな挫折を経験したとしても、その後の人生にいかせれば決して無駄ではない。成功よりも失敗、勝利よりも敗北から得られることの方が大きいと思っています。(横浜高校野球部前監督・渡辺元智さん)

改めて…地震に備えましょう！

●建物の耐震化

熊本地震では、揺れによる犠牲者は49人となりました。関連死された方々も含め、改めてご冥福をお祈りいたします。

49人のうち、7割超の37人の方が家屋の倒壊で亡くなられ、そのうち、少なくとも20人がいた家屋は、昭和56年以前に建てられたものと判明しています。品川区でも、昭和56年5月31日以前に建てられた家屋などの耐震化を支援しています。



木造住宅の耐震化

- ① 無料診断 簡易な診断を専門家が実施
- ② 一般診断 助成 1/2 (戸建て6万円まで/共同住宅12万円まで)
- ③ 補強設計 助成 1/2 (20万円まで)
- ④ 改修支援 助成 1/2 (戸建て150万円まで、1/3 (共同住宅300万円まで))

非木造住宅の耐震化

- ① 診断支援 助成 1/2 (10万円まで)
- ② 補強設計 助成 1/2 (20万円まで)
- ③ 改修支援 助成 150万円まで

分譲マンションの耐震化

- ① アドバイザー派遣 年3回(診断・改修・建替え、合意形成など)
- ② 診断支援 助成 1/2 (150万円まで)
- ③ 補強設計 助成 2/3 (200万円まで)
- ④ 改修支援 助成 1/3 (2,500万円まで)

●耐震シェルター

家の耐震化が困難な方には、倒壊しても圧死を避けるために寝室等に比較的容易に設置できるシェルターの設置を支援しています。



【対象】高齢者や障がいのある方がいる家庭

※所得制限等有り

【助成】品川シェルター50万円まで(ほぼ自己負担なし)

耐震化に関する相談窓口

品川区建築課耐震化促進 ☎03-5742-6634

●家具転倒防止器具の助成

一般世帯を対象に家具転倒防止器具の取り付け費用の助成を行っています。



【助成】課税世帯：取付費用の2分の1(上限4,000円)

非課税世帯：取付費用の全額(上限8,000円)

【申込期間】平成29年3月31日まで(助成金交付額が予算額に達した時点で受付を終了します)

※詳しくは品川区ホームページをご確認ください。

【問合せ】住宅課住宅運営担当 ☎5742-6776

避難所と町会を確認しておきましょう

日野学園

五反田一丁目町会
東五反田みづほ町会
五反田中部町会
五反田東口町会
五反田睦町会
西五反田一・二・三町会
島津山自生会
都営東五反田二丁目アパート自治会

第三日野小学校

池田山町会
袖が崎町会
相生会
上大崎一丁目町会
上大崎一丁目愛誠会
上大崎一丁目第一愛誠会
上大崎池の谷町会
上大崎目黒駅前町会
上大崎三丁目町会
目黒駅前西口町会
中丸親和町会
上大崎長者丸町会

第四日野小学校

夕陽会
大崎本町三丁目町会
西五反田四丁目町会
西五反田五丁目西三町会
西五反田山谷会
第一日野小学校
西五反田一丁目町会
西五反田本町会
西五反田七・五・三町会
西五反田西二町会
西五反田協和町会
西五反田六丁目町会
西五反田南町会

芳水小学校

大崎一二三町会
大崎三五町会
大崎四丁目町会
大崎居木橋町会
大崎ウエストシティタワーズ自治会
三木小学校
西品川三栄会
協力睦会
西品川新生会
西品川三ツ木会
大崎中学校
品川尚和会
西品川二丁目会

御殿山小学校

袖ヶ崎新興会
御殿山町会
小関親睦会
京陽小学校
平塚一丁目町会
平塚二丁目町会
中原共和町会
荏原平塚学園
平塚一丁目南部町会
平塚三丁目町会
東中延一丁目町会
西中延自治会



ワクワクワ ワクワクワ ワクワクワ 新聞 第113号

発行日：平成28年5月15日(日)
発行者：若林ひろき 品川区議会議員
ブログ：<http://ameblo.jp/wakabayashi-hiroki/>



災害時の食の備え
いざという時、自身と家族を守るために、飲料水(1人1日3L)、食料品、燃料など3日分は用意しておくことが必要です。支援物資はすぐには届かないもの…電気などが使えないことも予想し、災害発生直後は、そのまま食べられるものを用意しましょう。



私の本棚

「日本の教育がよくわかる本」
(池上彰/PHP文庫) その11
なぜ小中一貫校が増えている？

中一ギャップは、小学校と中学校の違い―学習スピードや定期テスト、先輩後輩関係などとうまく適応できずに不登校になったりすること、対策の一つとして行われているのが、小中連携や小中一貫教育です。

2013年調査によれば、公立小中一貫校は百校あります。品川区では、2006年から行われ、小中一貫教育要領を独自に定め、9年間を四年・三年・二年に区切って教育計画を立てています。中学校からの教科担任制が小学五年生から導入されています。学向上や中一ギャップ解消が表の理由だとすると、裏の理由が学校の統廃合と公立離れ、の問題です。単純に学校を統廃合するということよりも、小中一貫校に衣替えするというのが前向きな印象を与えます。また、東京都の公立中学校進学率は80%、五人に一人は私立中学校等に進学しています。受験者はそれ以上にいるはずですから、地域によっては三人に一人が受験をしている計算になるのです。(つづく)